

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価計画

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分

学校名	佐賀市立富士小学校
1 前年度評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の確実な定着については、今後も粘り強く指導する必要がある。教職員は、児童一人ひとりの伴走者となり、主体的に活動できる児童の育成を目指す。 ・自他を大切にすることを育てるために、小中9年間を見通した「心の教育」を継続する。特に、日頃の「言葉の使い方についての指導」を充実させ、誰もが安心して過ごせる環境をつくる。 ・児童に望ましい生活習慣を形成するため、また児童の体力増進を図るために昨年度以上に家庭や地域との連携を深める。 ・業務効率化をますます加速させる。

2 学校教育目標	地域を担う 夢に向かって伸びゆく富士っ子の育成
----------	-------------------------

3 本年度の重点目標	<p>①基礎基本の確実な定着と表現する力の向上を目指し、主体的に能動的に活動できる児童を育成する。</p> <p>②子どものwell-beingの実現に向けて、小中一貫校富士校として、9年間を見通した「心の教育」を充実させ、自他の命を大切にすること豊かな児童を育成する。</p> <p>③健やかでたくましい児童を育成する。</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目				中間評価	5 最終評価	主な担当者	
評価項目	取組内容	重点取組 成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価	最終評価		学校関係者評価
				進捗状況(評価)	進捗状況と見直し		達成度(評価)
●学力の向上	○基礎基本の確実な定着を目指す授業改善。	○「学校の授業は『よくわかる』『勉強はおもしろい』と感じる。」に肯定的な回答をした児童85%以上 ○「私は児童に基礎学力を定着させることができた。」に肯定的な回答をした教職員85%以上	・4月末までに、児童の実態把握に努める。前期は基礎基本を図る問題を家庭学習でも出す。後期は作問にも取り組ませる。 ・年3回の「富士っ子チャレンジ」(漢字と算数の復習テスト)を実施し、児童の全員が80点以上獲得を目指す。 ・校内研究や長期休業中で基礎学力向上について意見を出し合い、授業改善に生かす。 ・児童の全員が表現の基礎となる音読集の暗唱に1学期中に15個、2学期に15個取り組む。 ・操作活動、話し合い活動、タブレットの利活用を中心に授業を進めることで、児童が主体的に活動できるようにする。 ・めあてとまとめの一体化を意識し、授業を組み立て、どの教科でも児童による振り返りを入れる。 ・ノートやパソコンのどちらでもとめるか、単元末の復習では、基礎問題と応用問題のどちらに取り組むかなどを児童が選択できる場を設ける。 ・全学年で研究授業を実施する。				
	○表現する力の向上を目指し、主体的に活動できる児童の育成に向けた授業実践。	○「授業中、自分の考えを発言したり、友だちと話し合ったりしている。」に肯定的な回答をした児童85%以上 ○「児童が、自分の考えをもったり、友だちと話し合ったりする機会を授業の中に取り入れた。」に肯定的な回答をした教職員85%以上 ○「学習方法や、学習内容を自分で決めながら学習に取り組んでいる」に肯定的な回答をした児童70%以上 ○「児童が学習方法や、学習内容を自己決定しながら学習に取り組める場を設けた」に肯定的な回答をした教職員70%以上	・全校で「いじめ・いのちを考える日」や人権教室に計画的・組織的に取り組む。 ・自分や友達よさを見つけた、認めたりできる活動に取り組む。(人権の木取り組み)				
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「友だちとほかほか言葉で話し楽しく遊んでいる。」に肯定的な回答をした児童80%以上 ○「児童が自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など豊かな心を身に付けるよう支援した。」に肯定的な回答をした教職員80%以上	・毎月の教育相談・生徒指導協議会において、いじめの早期発見の視点から情報交換を行ったり、心のアンケートで見られた問題点などの共有を図ったりする場を設ける。 ・毎月の心のアンケートの結果をもとに気になる児童への聞き取りを行う。				
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「学校で困ったことやつらいことがあったら、担任やその他の先生に話したり、相談したりしている。」に肯定的な回答をした児童80%以上 ○「いじめ未然防止、早期発見、再発防止のために日頃から児童の様子や情報を得るための色々な手立てや配慮を講じ、気になることはすぐに他職員や管理職への報・連・相を行った。」に肯定的な回答をした教職員80%以上	・児童の実態把握に努め、適切な評価を行う。「人権の木」の取り組みに合わせ、ほめることを意識するよう呼びかける。 ・キャリアパスポートやキャリア教育の有効な活用を図り、児童が夢をもつよう支援する。 ・well-beingの実現に向けて、学級経営や学校経営に児童の意見を取り入れる。				
	◎●子どものwell-beingの実現に向けて、児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80%以上 ○「児童の意見を積極的に取り入れることを意識して、学級経営や学校運営を行った」に肯定的に回答した教職員80%以上	・地域の資材や人材等を積極的に活用する。(各学年の人材リストを活用する)				
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●「外遊びや運動を進んで行い、授業以外で1日60分以上、運動やスポーツをしている。」に肯定的な回答をした児童70%以上	・各学期に1回、全校で体を動かす取り組みを行う。スポーツチャレンジにも参加し、児童の取り組み意欲を高める。				
	●「望ましい生活習慣の形成」	○入眠時刻「1年生21時まで・2～6年生は、21時半までを守っている。」児童70%以上 ○「お子さんが、入眠時刻(1年生21時まで・2～6年生21時半まで)を守るよう声かけをしたり環境を整えたりしている。」に肯定的な回答をした保護者70%以上	・各学期に1回、「すこやかチェック週間」を実施し、生活習慣の確立をめざす。保護者にも、コメントをもらい、家庭でも生活習慣の改善に活用してもらう。				
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	○「時間の使い方や自分の校務分掌業務のスリム化を図り、学校全体の業務改善のために同僚と対話を重ねながら、より効果的な教育活動となるよう工夫改善した」に肯定的な回答をした教職員80%以上 ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守した教職員80% ●年間20日の年次休暇のうち、1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・会議の内容を精選する。会議の終了時刻を会議前に出席者全員で確認する。 ・各種行事や学校業務を見直し、削減・統合を進める。 ・毎月個人に時間外在校等時間の実績や年休取得状況を知らせて、教職員が自身の働き方を振り返る機会をとる。 ・計画的年休取得を推進する。				
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教育の専門性と意識の向上	○「特別支援教育に関する専門性が向上した」に肯定的な回答をした教職員80%以上	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・ケース会議の開催、関係諸機関との情報を共有する。				
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
評価項目	重点取組内容	重点取組 成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価	最終評価	学校関係者評価	主な担当者
				進捗状況(評価)	進捗状況と見直し	達成度(評価)	
○小中連携	○「9年間の学びを意識した小中連携による児童の育成	○合同体育大会や合同行事、相互授業参観や乗り入れ授業などを通して、児童生徒の「9年間の学び」を意識した教育活動を行うことができた。」に肯定的な回答をした教職員80%以上	・5・6年生の中学部での学習を計画的に効果的に行う。 ・小中合同協議会を年6回実施したり、合同体育大会を開催したりして、児童生徒の情報を共有し、9年間を見通した児童生徒理解を図る。				

●…県共通 ○…学校独自 ◎…意と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--